

開成校新聞

発行
開成中等新聞局
発行責任者 宮崎
* * *
制作者 真田・鳴海

1/365コマ



先日、後期テニス部はメンタルコーチの家治優さんから「マイナス局面の捉え方」の講話を受け、真剣な表情で耳を傾けた。

視野広がる学校交流

登別明日中等・札幌開成中等交流会

11月28日(木)、多目的ホールにて10期生と登別明日中等4回生の交流会が行われた。



↑発表をする明日中等の生徒と10期生

初めにクイズやリーダー探しなどのレクリエーションで親交を深めた後、各々の研究プロジェクトについてのプレゼンテーションを行った。行事や授業の様子など、互いの学校の共通点・相違点を知って会話が弾んでいた。

登別明日中等4回生の峯岸秀太郎さんは、「自分たちの学校の1学年よりも人数が多く、拍手で迎えられて最初は緊張したが、同じ年だけあって実際に交流してみると話しやすかった。明日中等のプロジェクトはとても自由な方針で、開成の探究学習の方が構成やサイクルに沿っているように感じた」と話した。

10期生からも、「校内の交流では得られない意見や、他校の研究を知ることができて良かった」「部活等の繋がりがから、新しい出会いもあってとても貴重な体験になった」などの満足する声が聞かれた。

10期生は3月上旬の台湾研修旅行でも、現地の高校生にプレゼンをする機会があった。

明日中等との交流で得た気づきは、台湾の学校交流でも活かしていたのではないだろうか。

居食のひとりに

前期生から後期生になって1番大きかった変化は、居食がお弁当になったことだった。

12月13日金曜日、10期生対象の充実期主催「お弁当コンテスト2024」の結果発表が行われた。

各部門の最優秀賞を受賞した6人に、3・4年生と保護者による投票で第1位(第3位を獲得した4人と、特別賞2人を加えた計12人の参加者に表彰状が贈られた。



→応募されたお弁当と
佐藤先生

廊下彩る！お弁当コンテスト2024

居食がお弁当持参に変わる4年次生を対象に、8期生以降毎年行われてきた「お弁当コンテスト」。

今年はお弁当コンテスト開催前の6月に、前段階として作ったお弁当を持ち寄るピクニックも行われた。

運営を担当した4年1組担任の佐藤由佳先生は、コンテストの狙いについて「お弁当は保護者が作るという固定観念に捉われず、生徒が自分で楽しく・おいしく食べられるお弁当を作る体験になって欲しい」と語る。

来年のお弁当コンテストにはどんな傑作が現れるのか。期待が高まる。

後期生が使用している2、3階のラウンジには、コスモタイムになるといつも給食の匂いが漂ってくる。

小学校入学から4年次に入るまで、いつでも私たちの身近にあった給食。給食当番がないことや、コスモタイムの自由時間

が増えることなど、お弁当にもメリットはある。自分が食べたいものを食べられるのは、お弁当ならではの良さだとも思う。それでも前期の頃は毎日食べていた給食が、食べられなくなった今は何だか恋しく感じてしまうのはなぜだろうか。